

第1回 グランドハンドリングにおける安全監督体制の強化に向けたWG 議事概要

日時：令和6年10月29日（火）16:00～17:30

場所：中央合同庁舎第3号館11階 特別会議室

事務局、空港グランドハンドリング協会、全国空港給油事業協会、定期航空協会及び航空連合からの資料説明後、有識者等から以下のような発言があった。

- グランドハンドリング業務の産業構造については、一次受け、二次受けといった重層構造となっており、多種多様。このような業界構造に着目することは重要と考える。委託が適正に行われる仕組み等を業界全体で作っていくことが重要ではないか。
- グランドハンドリング業務に起因する事故の多くは、ヒューマンエラーが要因となっており、その対策として人材育成やトレーニングによる対応が必要となる場合が多い。こうした対策は重要であるが、その一方、技術開発や新技術の導入といった、人間に頼ることのないような取組について焦点を当てるなど、多方面から議論することが、ヒューマンエラーやグランドハンドリングが抱える様々な課題解決に寄与すると考えられる。
- 空港安全情報分析委員会において、グランドハンドリングに係る事案についても、ヒューマンエラーの専門家の意見を聞き、分析を深めていくことが大切ではないか。またヒューマンエラーを防ぐ方策について、労働者側の意見も踏まえつつ、議論を進めていただきたい。
- 業界として、今回のワーキンググループの趣旨に関して異論はない。制度的措置を行う場合は、体制整備等のための準備期間が必要になるため、業界の意見も聴いて反映してほしい。
- 航空機への給油業務については、短時間に、狭隘な場所で、難しい作業をしているということが課題。人手が不足している中、一人前に育成するにも時間がかかる。長期的な視点に立って、安定的な業務の遂行に資する取り組みを検討いただきたい。
- 新たな制度を検討していく上では、既存の制度との整合性や、現場にとって過度の負荷とならないように配慮していただきたい。現場の業務の円滑な運営と安全性の確保の両立をめざして議論いただきたい。

以上